
傭兵と亡霊

ことろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傭兵と亡霊

【Nコード】

N3532N

【作者名】

ことろ

【あらすじ】

国家解体戦争から、数年先の未来。
壊滅した企業レイレナードに所属していた一機のネクストがアナトリアの傭兵に挑んだ話。

（前書き）

妄想と勢いだけで書いた。
反省はしているし、後悔もしている。

周りにあるのは碎けたパーツ。

『そんな……。ネクストを四機も……………』

警告音に混じって女性の声が聞える。

「フィオナ・イエル・ネフェルト。アナトリアの傭兵も一緒か」

火花が出ている機体を動かす。

『なにが……。なにがそこまで貴方を動かすの』

「答えが欲しいのか？」

『……………』

「否、弔いではない」

白い機体が接近してくる。

『……………』

「ああ。手加減は必要ない」

『……………』

「無駄な戦い？馬鹿を言うな。俺にとっては重要な戦いだ」

ブーストを使う。

全身のパーツが火花を出し、警告音が大きくなる。

『――』

「そうだな」

オーバーブーストを使うためにエネルギーを溜める。

「始めよう。アナトリアの傭兵」

一瞬で時速二千キロを超える。

『こんな、こんな戦いに意味があるの!?!』

白い機体とすれ違う。

「意味が欲しいなら、後でつければいい」

すれ違いにブレードで白い機体を切ったが直撃はしていないようだ。

機体を反転させると白い機体は既に銃口をこちらに向けている。

『レイレナードは既に壊滅したのよ!?!』

銃口が光る。

飛んでくる弾丸をクイックブーストで右に動き避ける。

「企業が壊滅したら戦いは終るのか？違っだろう」

白い機体に接近して前方に一気に加速する。

「そこに戦場があるなら、戦う。それが俺達リンクスだ」

白い機体をロックしているカーソルが白から赤に変わった瞬間にブレードを使う。

千キロから二千キロに加速して白い機体に接近する。

（終わりだ！！）

ブレードが白い機体当たる直前、違和感。

白い機体の横を通り過ぎて距離をとる。

距離をとり、反転すると同時に緑色の閃光が光った。

「アサルト・アーマー……。流石、アナトリアの傭兵。新装備を使いこなすなんて俺には出来そうに無い」

次世代型のネクストにのみ、搭載可能な新兵装。

コジマエネルギーを外部に放出すると同時に周りの者全てを攻撃可能な武器。

自らに迫るミサイルや銃弾でさえも掻き消すソレは、正に攻防一体。

欠点があるとすれば、暫くの間プライアルアーマーが使えないことだが。

「アナトリアの傭兵ほどの腕前があれば、被弾などしないか」

白い機体に接近する。

飛んでくる銃弾とミサイルを全て避ける。

「だが、それは相手が一般的なネクストであつた時の話だ」

白い機体を眼前に捕らえる。

「終わりだ」

先程の片手のブレードではなく、両手のブレードを同時に使う。

十字切りと呼ばれる技。

白い機体に二本の紫色の刃が直撃する。

白い機体から火花が飛び出て動かなくなる。

「アナトリアの傭兵。最後はこんなものが、呆気ない」

動かなくなった白い機体を見ると、一瞬だけ違和感を感じる。

「光っている？」

見れば、先程まで光を失っていた頭部パーツのカメラ部分が光って

いる。

「再起動だと？出鱈目だな。アナトリアの傭兵」

直に距離をとる。

『もう止めて！！貴方では彼に勝てない！』

フィオナ・イエル・ネフェルトの叫び声が耳に響く。

「勝てない、か……。その通りだ、フィオナ・イエル・ネフェルト」

距離をとったのは失策だった。

「仮に私が万全であったとしても、アナトリアの傭兵には敵わないだろう」

白い機体の銃口が此方を向いている。

ブーストを使えるのは後二回が限度だ。

白い機体の銃口が光る。

「だが、それでも挑み」

避けた所で避け続ける事は不可能だ。

ならば――

「彼の地で誇ろつ。最後まで戦い抜いて死んだと」

前方に向けてブーストを使う。

白い機体の銃弾が左肩の部分のパーツを吹き飛ばす。

白い機体のロックカーソルが赤に変わる。

最後のブーストを使い、加速する。

「アナトリアの傭兵……。たしかに貴様の戦闘力は馬鹿げている」

接近した白い機体が緑色の光を発する。

「だが、心しておけ。貴様がそうであった様に、次世代を担う者が貴様の前に現れる。その時に貴様は――」

「――」

「……そうだな。不要な言葉だったか」

緑色の光が一瞬だけ収縮し、拡大する。

「さらばだ……」

最後に見えたのは緑色の光の中に堂々と存在する白い機体だった。

全てがレイレナードの部品でくみ上げられた機体。

左腕を失い、全身から火花を出しながらとまっている。

『終わったのね』

彼女の声が入る。

『あの時。レイレナードの本社に彼の婚約者がいたんだって、彼は弔いでは無いと言っていたけど、多分』

言葉を止める。

『……………。今は貴方が無事でよかった。帰りましょう。新しい投げ所へ』

『———』

オーバーブーストを使い、一気にその場から離れた。

『次世代を担う者、か。その人が現れた時、貴方は……………』

（後書き）

開始時点で破壊されていたネクストはカリードのランク外と言う、設定で書いてます。

レイレナードのネクストさんはカリードのランク8位の実力のつもりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3532n/>

傭兵と亡霊

2010年10月9日09時43分発行